

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900755		
法人名	特定非営利活動法人 八竜会		
事業所名	グループホームまどかⅡ		
所在地	熊本県八代市坂本町西部い2920-1		
自己評価作成日	平成28年10月18日	評価結果市町村報告日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市北区四方寄町426-4		
訪問調査日	平成28年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の意思を尊重し、出来るだけ自宅で過ごされるのに近い生活を送って頂けるよう起床、就寝時間など柔軟な対応を心がけている。食事の時にはテーブル拭きや箸を並べてもらったり、料理やおやつと一緒に作り、後片づけもお願いしています。音楽に合わせてラジオ体操や地元の踊りや歌を歌ったり、季節の行事をしたり、年一回はそば打ちボランティアの方に来て頂き、家族様や地域の人たちを交えての食事会をし交流を深めています。また野菜の栽培は利用者と一緒に近くの畑まで行き、種まきや草むしりをしたり、散歩がてら成長を見に行ったりし、収穫し食するまでを楽しんでいます。また庭で栽培した花を食卓に飾り四季を感じてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

球磨川沿いにあるホームは開設9年目を迎え、今年4月に水害ではなく熊本地震を体験した。断水が続く中職員間のチームワークや家族、地域関係者などの支援により、乗り越えた。この際、入居者には大きな混乱はなかったということで、日ごろからの入居者への関わり方の賜物と思われる。入居者の生活歴や性格などの理解に努め、入居者を中心としたその人らしい生活を送れるように取り組んでいる。開設時より地域との関係を重要視し、地域交流のためにイベント時の招待や積極的な外出に努め、地域へホームの存在を浸透させている。恒例となった家族ボランティアの「そば打ち体験」など、家族との信頼関係も構築されており、訪問時に見られた入居者の笑顔や歌声は安心した生活が送られていることの裏付けであるように思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をホーム内3か所に掲示し、意識付けを行い、毎月の会議において理念を踏まえた支援を話し合うようにしている。朝夕の申し送り時に全員で理念を唱和している	事業所内の目につく場所に職員で考案した独自の理念を掲示してある。理念を具現化するために、毎月の職員会議時に話題にしたり、研修を計画的に実施し、学んだことを日々のケアに確実に反映できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地区の清掃活動や廃品回収に参加したり、隣の神社の祭りの手伝いもしている。また収穫した野菜、花を差し上げたり、頂いたりしている	設立時より地域との関係を重視しており、清掃活動や廃品回収などの地区の行事には積極的に参加している。地域の祭りや買い物にも出かけており、入居者の楽しみごとの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の会議で認知症についての質問を受けたりした際、認知症の支援の方法について説明している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の都度、現在の利用者の状況、サービスの状況を報告し要望を聞いたり提案したりしている。踊りやそば打ちのボランティアの方を招いて利用者と家族が共に過ごす時間を作っている	入居者の状況やそれに対するサービス内容の報告やメンバーからの質問や要望を聞き、回答したり、次回へ持ち帰り検討したり、意見をサービス向上に役立てている。また、入居者との時間を共有し、理解や協力につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点があれば連絡し指示を頂いている。運営推進会議に市役所の職員に出席をお願いしている	運営推進会議への出席により、ホームの理解や相談できる関係であり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々玄関を開放している。身体拘束については、事業所内外の研修に参加し全職員が理解したうえでケアに努めている。施錠については、昨今防犯上の必要性も考えている	事業所内部や外部研修にて身体拘束の弊害を理解し、会議等で話し合い職員の共有認識を図っている。現在、玄関の施錠はしていないものの、最近の事件や国からの通達等により、安全面を考慮した方法を検討中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所外の研修に多く参加して学ぶ機会を持つようになっている。事業所内でも学ぶ機会を持ち、特に言葉の虐待が見過ごされる事のないように注意しスタッフ会議でも常にケアを振り返っている		

グループホームまどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	G・H地区部会の研修等に参加したしている。引継ぎ時に伝達講習を行い、参加者は研修レポートを作成し理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時は勿論、運営推進会議や面会時に説明したり、書面にして郵送したりして、理解し納得頂いている。見学者に対しても重要事項説明書で説明することもある		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時にご家族に声掛けし意見を伺っている。それらを記録に残し、伝達し職員間でも話し合っている	運営推進会議への参加を常に呼びかけ、事業所への訪問の機会を図っている。訪問時には意見等を言いやすい雰囲気づくりに努め、出された意見、要望には職員会議やホーム長を含めて話し合い、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時ホーム長に報告している。法人理事長も月1回のスタッフ会議に参加し、利用者に対してのサービスの向上や仕事の内容について話し合っている	管理者は職員からの意見提案を日常的に聞いており、円滑に働きやすい環境を作るように努めている。ホーム長への報告も欠かさず、職員間のコミュニケーションを図るように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や職務に対する意欲、研修への参加意欲等を昇給・賞与反映する人事考課を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得希望者には、勤務調整をしたり、相談に応じている。地域のGH連絡会主催の研修には、より多くのスタッフが参加できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回のG・H連絡会の研修や懇親会、またそれ以外の研修に参加し情報交換をしている		

グループホームまどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話を傾聴し不安を取り除くように努めている。入居当初は特に関わる時間を設け職員間の連絡を密にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前はもちろん入居後も御家族の話を聞き、折に触れ利用者の情報を報告したり、関係づくりに努めている。管理者を窓口にして深く関わっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人が必要としている事を入居後すぐに実行出来るようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の能力に合わせて掃除や洗濯物干し、たたみ、テーブル拭きや配膳、また料理やおやつを職員と一緒に作ったり、野菜の栽培から収穫までをスタッフと一緒に楽しんでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に日常生活の出来事を話し、助言を頂いたり、折に触れご家族からその人の入居前の生活歴や病歴を聞くようにしている。発熱など体調変化があった時は電話で報告することもある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会が出来るようにしている。お盆や正月には出来るかぎり家に帰ってもらったり、住み慣れた地元に出向いたり、家族友人関係が途切れないように支援している	機会や要望があれば出来るだけ自宅や馴染みの場所へお連れしている。お祭りなどの外出の際に友人・知人と会って話をしたりする機会を設けている。事業所でイベントをする際には家族へ参加を呼びかけ、一緒に過ごす時間を持てるような機会を提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで歌を歌ったり、ゲームをしたり音楽に合わせてラジオ体操や踊りを踊ったりしている。利用者同士の関係をみて、席の移動もしている		

グループホームまどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方にも転居先の施設に面会に行ったり、またそのご家族とも継続的な付き合いが出来るようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の何気ない言葉にも注意を払ったり、要望を聞いて献立を決めたり、行事を計画したり、本人の意向の把握に努め、希望に添うようにしている	日常の関わりの中での何気ない言葉や表情から本音を推測したり、確認するようにし、職員間で共有している。困難な場合は家族や関係者からの情報を得て、希望に沿うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からはもちろん、それまで利用されていた施設や病院等からの情報収集に努め、入居後も折に触れ本人やご家族に趣味や嗜好品、生活歴を聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し利用者一人ひとりの生活リズムを現状把握し、必要に応じて支援の方法を会議や申し送り時に話し合い都度変更している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族との日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。会議や申し送りの時にこまめにモニタリングを行い現状に即した支援を行っている	計画作成担当者が職員・家族からの直接の会話や記録から情報を収集し、アセスメントを行い、月1回の職員全員でのモニタリングを行い半年ごとに介護計画を直している。変化があればその都度みなおし、現状に即した介護計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子を個別記録に記入し、朝夕の申し送りで報告し情報を共有している。その情報を必要に応じて話し合い、ケアや介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランにとらわれずその日の天候やその時の利用者の気分や体調に応じた柔軟な支援を心がけている		

グループホームまどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事がある時は近所に声かけしている。ボランティアの方による敬老会の催しや地元のふるさと祭りに参加したり、今年も市内の短大からの要望によりスコップ三味線演奏を披露しました		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的には、家族に同行を依頼しているが、家族の希望によっては職員が同行したり、往診をお願いしたりしている。必要に応じて主治医に連絡して指示を頂いている	入居前のかかりつけ医の受診ができるようにしている。通院は基本、家族であるものの、緊急や希望に応じて職員による通院介助をしている。受診前後の家族、職員間の情報の共有は徹底して行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態や必要に応じて看護師に連絡、相談し場合によっては受診したり、医師に連絡している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、情報を提供するとともに面会行った際には主治医や看護師から情報を得るようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化になった場合、家族や医師、スタッフと話し合うようにしている。重度化になった利用者の担当医師と連絡を密にしホームで出来る限りの支援を行っている。転居の場合、他施設と情報交換している	入居時や訪問時に家族や入居者には事業所の出来ること、出来ないことの説明をし、理解していただいている。重度化になった際には家族や本人の要望に応じて、医療と連携しつつ、家族の協力体制のもと取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議などで随時話合、ホーム内外の研修にも参加し、全ての職員が対応できるように努めている。緊急時の連絡体制を作成し、夜勤室や事務所の見やすい場所に貼っている。非常持ち出し袋は玄関に置いている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者講習に参加し資格取得している。年2回の避難訓練を利用者と共に行っている。緊急連絡網を作り職員に配布している。市政協力員の協力も仰いでいる	年2回、入居者参加で昼・夜想定を変えて実施している。近隣の同法人事業所との協力体制がある。本年度に体験した地震の際に必要な事項等についての振り返りにより、マニュアル等の作成の必要性を感じている。	体験を通して、より具体的な地震を含めた災害に関するマニュアルの作成が期待されます。

グループホームまどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性に合わせて声かけや対応を工夫し、誇りやプライバシーを損ねないように注意し会議等で話し合っている。不適切な言葉かけや対応が見られないように職員間で注意し合い啓発に努めている	各々の入居者に応じて言葉かけや対応をしている。不適切な対応が見られた場合にはその場で話し合ったり、会議の議題にしたりし全職員で検討し改善、啓発に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、利用者の希望を引き出すようにしたり、自己決定が出来るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、利用者の状態に合わせて柔軟に対応している。スタッフの都合に合わせた対応にならないように、会議や申し送りに話し合っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは基本的に本人に任せ。化粧水をつけられる利用者や洗面所でブラッシングされる方もおられる。入浴準備の際は、スタッフと一緒に自分で衣服を選んでおられる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のリクエストで献立を決めたり、旬の食材や行事食を提供し季節感を出している。簡単な料理、後片付けを手伝ってもらっている。職員も同じ物を一緒に食べている	季節感や入居者の好みや食べたいものを聞いて献立に取り入れている。台拭きや食器洗いなど、できることを入居者とともにやっている。誕生日にはケーキを用意したり、菜園に行って一緒に収穫するなど、食事に関することを共に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、おやつ、水分摂取量を毎日記録。月1回体重測定を行い職員が情報を共有している。献立表を作成し、栄養面でバランスのとれた食事を提供するよう心掛けている。飲水量が少ない方には、好みに応じた飲料を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、本人の能力に応じて見守りや介助を行っている。就寝前に義歯を預かり、夜間洗浄している		

グループホームまどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、尿・便意のない利用者には時間を見計らって誘導することによりトイレで排泄出来るようにしている。就寝後も声かけトイレ誘導している人もいる	排泄表を活用し、時間や入居者の様子や仕草から排泄を察知し、スムーズなトイレ誘導を行っている。各々に応じた排泄用品を使用している。夜間も時間により、パット交換やトイレへの誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用い排泄パターンを把握し食物繊維の多い食事や乳製品で対応し、水分を多めに取られるよう声掛けしている。個人的に乳酸飲料をと摂っておられる方もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜以外の午後を入浴日に充てているが、柔軟に対応し週3回の入浴を実施している。拒否の強い方には声かけを工夫して気持ちよく入浴して頂けるように配慮している。浴槽に入るのが難しい人には足浴をしながらシャワー対応をしている。	週に2～3回、午後に入浴支援をしている。脱衣所、浴室は冬でも適温にし、湯船に入れない入居者には足浴+シャワー浴とするなど気持ち良く入浴できるように工夫している。起床時には陰部洗浄を欠かさず実施するなど、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整え夜間良眠出来るように支援し、不眠の方には家族、医師と相談しながら安眠出来るように支援している。冬は湯たんぽを使用している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作り情報を全員が共有している。処方箋の変更があった場合は副作用や利用者の様子を記録に残し、状態によっては医師や家族に連絡、相談している。禁忌食は冷蔵庫に掲示している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ、掃除やテーブル拭き、後かたづけ等個々に出来ることをお願いしている。ドライブや外気浴、散歩など外出の機会を作っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の希望に応じて日常的に散歩やドライブに出かけたりしている。新幹線の見える公園や菖蒲園などにおやつを持って出かけたり、地元の祭りや花火を見に行ったりしている	天候や体調を考慮して花見や祭り、ドライブや買い物、散歩などに出かけている。毎日のように事業所の敷地内での外気浴や日光浴、菜園での草取りなどもしている。毎年恒例で八代市内の高齢者施設の文化祭に演者として出場するなど、外出の機会を設けている。家族の協力のもと、外食や外出も楽しまれている。	

グループホームまどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族と話し合い、少額(概ね三千円)を自分で管理しておられる。外出した際にお土産としてお菓子を買ってこられる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ををかけたいとの希望があれば職員が取り次いでいる。郵便物は直接本人に手渡し、贈り物があつたらお礼の電話をかけたり、礼状を出してもらうように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、七夕やクリスマスツリーを皆で飾ったりして季節感を出している。美味しそうな料理の匂いや包丁の音がしたり、音楽をかけて五感を刺激するよう努めている	季節感や家庭的な雰囲気を大切にしており、花や飾り物をしている。玄関には職員が持参した花がいけてあり、食堂では台所での作業をテーブルに座ったまま見ることができ、匂いとともに五感を刺激している。ソファのある部屋にはテレビやカラオケが設置しており、くつろぎの空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、ソファ、ベンチなど一人ひとりが好きな場所で過ごし、テレビを見たり利用者同士話をしたり出来るようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にはベットやタンスは施設の備え付けを使用しているが、寝具や目覚まし時計など使い慣れた物や写真や人形など愛着のある物を持ってきて頂き居心地よく過ごせるように支援している	入居前に使用されていた家具や生活用品の持ち込みがしてある。家族の写真なども飾られている。現在の身体状況に応じて家具のレイアウトをしたり、動きやすいようなゆったりとした空間が維持されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の両脇には手すりを設置し、トイレ、浴室の必要な部分には安全を考慮して設置している。歩行が不安定な方には杖やバギー車を使用してもらっている。中には車椅子介助での移動の方もおられる		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名グループホームまどかⅡ
作成日 平成28年12月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	48	ADLの低下により、外出出来る利用者が限られており、季節感を味わうことが少なくなってきた	ホーム内で牛乳パックを使つての家庭菜園、成長までの過程や収穫、食を通して季節感を味わってもらふ。花の栽培もあわせて行なう	出来る人には、土入れ、種・苗の植え付け、名札に名前を書いてもらい成長が何時でも見えるように中庭に置き水やりなども行いながら、満足感や達成感を味わってもらふ	12ヶ月
2	19	入居してからは、職員が用意しない限り、自発的に身近な人に手紙を書いて今の思いを伝える機会が少なくなった	誕生日カードを作り身近な人にメッセージを書いて送る	年、1回の誕生日に担当職員と一緒に作った誕生日カードに今の思いを写真・絵などを添えて身近な人に送り、その思いを共有してもらふ	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

